



学校だより

教育目標：元氣な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.536

令和 4年 5月 2日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一雄

思いやる心

校長 岩井 一雄

目にもまばゆい緑の季節を迎えました。

わずか3週間ばかりで新しく入学してきた1年生も学校に慣れ、それぞれの学年も板についてきた様子で嬉しく思っています。子供たちを見ていると、1年生は1年生の、2年生は2年生の顔だな、とつくづく感じられ、この1年間の差の大きさに今さらのように驚かされています。

さて、各教室に掲げられている本校の教育目標、「元氣な子ども」「考える子ども」「思いやる子ども」を日々目にしている、他校である研究授業を参観したときのことを思い出しました。

担任の先生は大変熱意のある方で、子供の学習意欲に結び付くよい教材を見付け出し、また、思考を深めるための掲示資料も手作りで準備し、発問も工夫して授業に臨んでいました。その先生は用意した模造紙の掲示資料をマグネットで黒板に貼ろうとしたのですが、マグネットを2、3個取り落としてしまいました。たくさんの参観者の中での緊張した場面だったので、先生は黒板の模造紙を押さえたまま、困ったような顔つきになりました。私は、当然子供が席を立ててマグネットを拾って、先生の手助けをするものと思っていました。ところが、誰も席を立とうとしない。そればかりか、幾分先生を冷やかすような声子供たちの間から聞こえてきたのです。先生はちょっと照れた表情になって、いったん模造紙を教卓に置いてからマグネットを拾い、再び黒板に貼りました。

間もなく教室は静まり、授業は予定通り進行していきましたが、授業後の協議会でこの点について指摘がありました。もちろん授業者の先生の熱意と努力、授業の進め方は全体の中で十分に認められた上でのことですが……。

私は、授業以前に、子供たちと先生との間に温かな信頼関係を築くことの大切さと、その上で自分の頭で考えて、様々な場合に対応する心構えと能力を育てていくことの大切さを指摘しました。

この出来事は小さなことのように見えますが、相手を思いやるなどの力は人と人とが関わり合っていく中で、あらゆる場面で必要な大切なものと考えます。学校生活全般の中で、人が困っているときに進んで助けようとする、授業の中では、友達の考えをよく聞いて理解し、友達の発言を踏まえて自分の意見を述べ、関わり合う。そんな子供たちの姿がたくさん見られるように、教育活動を進めてまいります。

5月の生活目標「友達をたくさんつくろう」

小学校の6年間は、心も体も大きく成長する時期です。多くの体験や、様々なチャレンジ、また、人との関わり合いの中で心が大きく成長します。今月の目標は「友達をたくさんつくろう」です。新学期が始まって1ヶ月、今まで仲のよかった友達を引き続き大切にするのはもちろんですが、新しい友達をたくさんつくる5月にしてほしいと願っています。そのためには、自分から声をかけることが大切です。もし、声をかけるのが難しければ、あいさつから始めるのもいいかもしれません。少しの勇気をふりしぼり、自分から声をかけられるよう、ご家庭でも励ましてあげてください。